

# Museum News

秋田県立博物館ニュース



「秋田県立博物館」の収蔵資料を閲覧できるアプリが登場！スマートフォンやタブレット端末で使えます。詳しくは3ページで！

 No. 156

## 目次

表紙・目次 .....	P.1
企画展紹介	
(予告) 企画展「霊峰鳥海に祈る人びと」 .....	P.2
(報告) 企画展「新着・収蔵資料展」 .....	P.3
企画コーナー展紹介 .....	P.4
(報告) 「真澄と秋田の国学者」	
(報告) 「伝説伝承そぞろ歩き」	
学芸ノート	
(生物) 虫こぶ .....	P.5
(歴史) 明治の商業デザイン .....	P.6
イベント・博物館教室他 .....	P.7
平成25年度 展示予定 .....	P.8

企画展

# 霊峰鳥海に祈る人びと

鳥海山は秋田県と山形県の県境にまたがり、日本海に直接ゆるやかな裾野を落とす独立峰です。この山は古代、大物忌神が鎮座する国家を護る山として高い位階を与えられていました。また山から流れ出る水が、ふもとの田畑をうるおし、人々に多くの恵みを与えてくれることから、この山は農業神としても信仰されてきました。

古代から中世にかけて修験道が広まってくると、鳥海山は修行の山となるとともに、薬師如来を祀る山として広く信仰の対象となりました。

江戸時代になると幕府の宗教政策の中で、修験者は京都の聖護院(本山派)か醍醐寺三宝院(当山派)のいずれかに属することになり、各地を遊行することが多かった修験者は地域社会に定着していきました。当時の仏像や文書資料からは、鳥海山が人びとにいかに関心されていたかを知ることができます。

本展では鳥海山の信仰に関する資料約100点を鳥海山を描いた江戸時代から現代までの絵画とともにご覧いただきます。

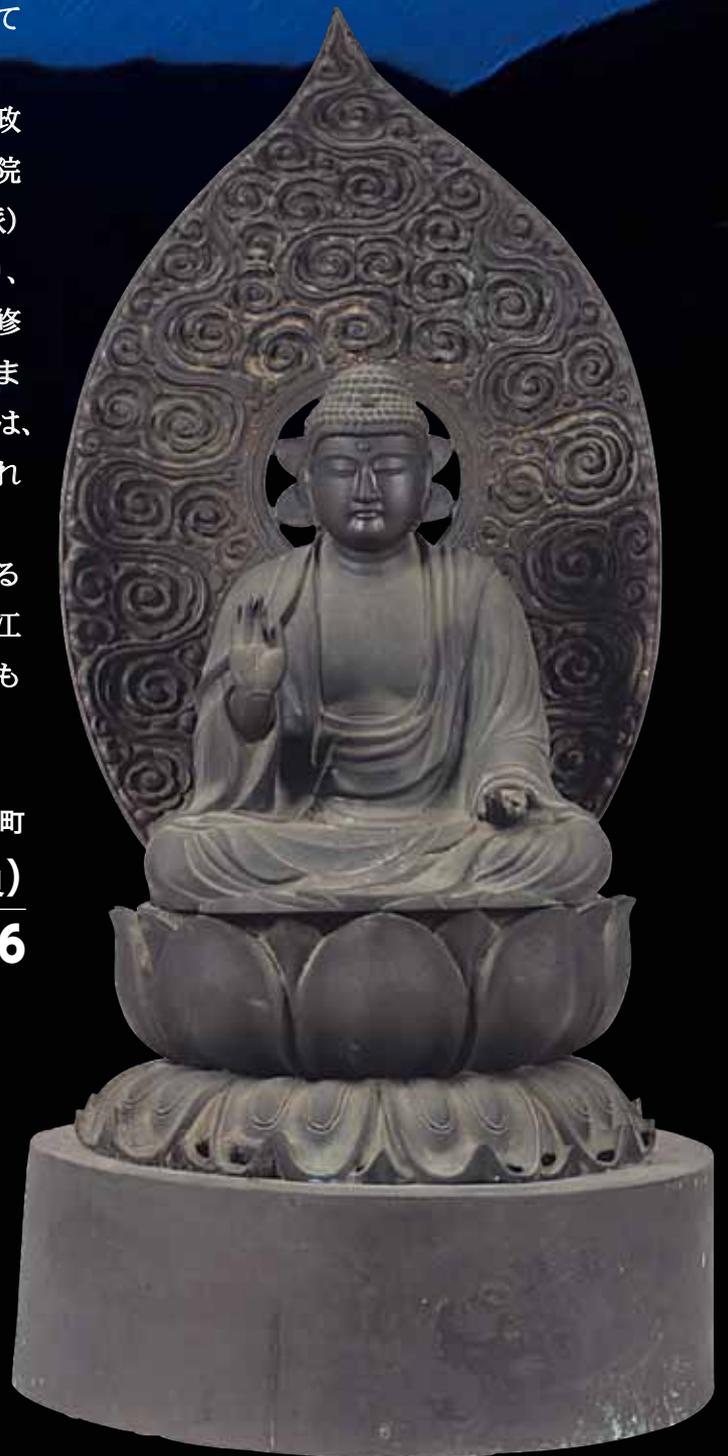
展示協力: 由利本荘市 にかほ市 遊佐町

**展示解説 (当館学芸職員)**

**4/27 5/3,18 6/2,16**



鯿口 (鳥海山大物忌神社蔵・  
写真提供: 東北歴史博物館)



銅造薬師如来坐像 (龍頭寺蔵)

平成24年12月15日(土)～平成25年4月7日(日)



秋田県立博物館では、常設展とともに年に4つの企画展示を行っています。その多くは、各部門の切り口から郷土秋田に関する日頃の調査研究の成果を紹介するものですが、ここ数年は2年に一度の割合で全部門参加型の展示を行っています。一つのテーマを深く掘り下げていくというよりは、様々なジャンルによるバラエティに富んだ内容が売り物です。

今年度で開館から38年目を迎えた当館には、これまで全部門合わせて約153,000点(平成24年4月現在)の

資料が収集されています。購入した資料や学芸職員が採集した資料などもありますが、県民からの寄贈によるところが大きな割合を占めています。

こうした県民の財産をできるだけたくさんご覧いただけるようにと、常設展をはじめ企画展示や各展示室の展示替えコーナーなどでご紹介しています。しかし、中には普段学術資料として保管されているなどの理由から展示室に出ることはないのですが、実は調査研究を進めていくうえで貴重な資料というものも少なくありません。

今回の展示では、このように日頃からその価値や面白さを伝えたいと感じている資料や、平成22年度に開催した「新着・収蔵資料展」以降に当館の収蔵となった新着資料を、全部門合わせて約1,000点ご紹介しました。

各部門の展示内容

- 生物：2010年以降に標本化した鳥類などの剥製や骨格標本、軟体動物のアクリル封入標本、当館職員が採集したノミゾウムシ類、ウスバカゲロウ類の昆虫標本
- 地質：金属のデパートとも呼ばれ脚光を浴びようになった黒鉱
- 考古：東成瀬村矢櫃遺跡、大館市池内遺跡、秋田市戸平川遺跡、秋田市手形山窯跡、秋田市松木台遺跡等の出土品
- 先覚：油絵や彫刻などの様々な手法で表現された先覚者たちの肖像
- 真澄：真澄研究の第一人者である内田武志の研究経緯を示す資料
- 民俗：畑儀三郎が描いた「かまくら」や秋田の冬の民具、これまで紹介できなかった秋田の土人形
- 工芸：今回初公開となる秋田八丈の着物を中心に、秋田八丈に関連した収蔵資料
- 歴史：圧倒的な量をほこる商業史資料、明治初期の旧秋田藩士のガラス板写真、博物館教室「古文書大講校」関連資料

また、当館では現在、郷土の文化資源発信拠点としての新たなスタイルとして、所蔵している資料をデジタル画像化して管理することにより、スマートフォン等のアプリケーションやインターネット上で閲覧できるシステムを準備中です。一般への公開に先立ちまして、このシステムの紹介やタブレット端末で体験できるコーナーも併設しました。今後、個人はもとより学校での授業や県内外の各施設で活用が広がることを期待しています。

サブタイトルの「未見！発見！秋田県！」に込めた思いのように、この展示を通して当館ではこれまで見たことがない資料と出会い、そこから秋田に関わる新しい何かを発見していただけたなら幸いです。

(展示資料班：藤原尚彦)



未見！発見！秋田県！  
企画展 新着・収蔵資料展

平成24年10月20日(土)～12月2日(日)

企画コーナー展（菅江真澄資料センター）

## 真澄と秋田の国学者

菅江真澄は国学者か否か。この課題は、ひとえに国学や国学者をどう定義するかにかかっています。真澄に関する判断はひとまず置くことにして、展示では、真澄周辺の人物についての国学を考えてみました。

国学者として定義したのは、国学の師承関係にある人物、あるいは、国学の内容に入る著作を残した人物です。ここでいう「国学の内容に入る著作」とは、本居宣長が古学（いにしえまなび）であると『うひ山ぶみ』で定義した我が国に関する学問のうち、古文獻に基づく実証性を重んじた著作としました。

展示では、秋田藩校で「和学」を教えた大友直枝と鳥屋長秋、藩主に近習した高階貞房、神官の鎌田正家、僧侶の是観上人の五人を取り上げました。

大友直枝の実家である波字志別神社に残された国学関係資料など、貴重な資料を数多く紹介することができました。

（菅江真澄資料センター：松山 修）



ら えん どう もん ろく  
蘿園問答録

（大友直枝著、横手市大森町・大友克己氏蔵）

本居宣長が弟子との問答を記録した『問答録』に倣い、大友直枝の家塾「志都乃岩屋」で弟子との間で交わされた32の問答を記録。大黒天の説、国造の説、幽事・顕事の説など、宣長の説に依拠するところもみられるが、大友直枝の学問や思想を知ることができる著作である。

平成25年2月9日(土)～3月24日(日)

企画コーナー展（菅江真澄資料センター）

## 伝説伝承そぞろ歩き

菅江真澄は、日記や地誌、随筆といった著作にたくさんの伝説を記録しています。民俗学の柳田国男は『口承文芸史考』で、ハナシを伝える昔話とコトを伝える伝説を区別しています。伝説は特定の「土地や事物」（コト）にまつわる話として成立しながら、多くの語り手の個性を経過するため、虚構と事実が入り混じったものになる傾向を持ちます。ただし、当時の人々にとっては、コトと結びついた伝説は、それが目の前にあるだけに真実として受け止められていたことでしょう。

真澄が伝説を書き留めたのは、その中から歴史的事実を読み取り、伝説にその土地の地名由来や特徴を見出すためだったと考えられます。

伝説が息づく秋田のよさを認識していただくため、展示では、秋田県を県北・県中央・県南のブロックに分けて、真澄が書き残した伝説を紹介しました。特に、図絵を含んだ伝説を紹介することで、真澄を片手に県内をそぞろ歩きしていただきたいと考えました。

（菅江真澄資料センター：松山 修）



人見宇右衛門覚書

（大館市立中央図書館蔵）

真澄は地誌《雪の出羽路平鹿郡一》で、「人見日記」からとして、水に棲む河熊という化物が秋田初代藩主佐竹義宣の鉄砲を船端から取ったとする伝説を書き写した。『含借録』二篇巻十所収の「人見宇右衛門覚書」として、真崎文庫に写本が残されている。識語から真崎勇助の書写であることがわかるが、「真澄考（「ますみおもうに」と読む）」と二カ所にあることから、真澄の手沢本を写したものと考えられる。

## 虫こぶ ～虫と植物のユニークな関係～

植物の葉に「こぶ」が付いていたり、芽や茎が異常に肥大していることがあります。こぶの内部を見てみると虫の幼虫が見つかることがあります。そのことから、これらのこぶは「虫こぶ」あるいは虫癭（えい）と呼ばれています。こぶを作る形成者によってそれぞれのこぶを虫えい、ダニえい、菌えい、そして、広くゴール（gall）と呼んでいます。

ゴールは、ゴール形成者による何らかの刺激により、寄主となる植物の細胞・組織が異常に増殖、肥大して生じたものです。この刺激については、産卵による分泌物や幼虫の摂食に伴う刺激などが考えられますが、いずれにしても、ゴール形成者に対する植物側の反応の結果としてゴールは作られているのです。

ゴール形成生物の大部分は動物で、その主要なものは昆虫です。目立つゴールを形成する昆虫ではタマバエ類が代表的なもので、この他にはアブラムシ類、カイガラムシ類、甲虫類などが挙げられます。

下の写真は、博物館裏手の梅林脇のエゴノキの側芽に形成された「エゴノネコアシフシ」で、猫の脚指にたとえられたバナナ状の虫こぶが作られています。形成者は「エゴノネコアシアブラムシ」というアブラムシです。



(平成24年8月15日)

虫えいの名称は「『寄主植物名』 + 『形成される部分』 + 『形態的特徴』 + 『フシ（虫えいの意味）』」で命名されることが多く、この虫えいの場合は「『エゴノ（キ）』 + 『（ハ）』 + 『ネコアシ』 + 『フシ』」となりますが、名称の一部や形成される部分を省略して「エゴノネコアシフシ」と呼んでいます。最も多くの虫えいが見られる植物体の部位は葉ですが、葉柄に形成される場

合は「ハグキ」あるいは「エ」、葉身に形成されれば「ハ」、葉脈であれば「ハスジ」や「ハミヤク」、葉縁であれば「ハベリ」と命名しています。また、次の写真は博物館入口横のケヤキの葉に形成された「ケヤキハフクロフシ」で、形成者はケヤキヒトスジワタムシです。寄主と虫こぶ形成者



(平成24年5月30日)

との間には特異な関係があり、虫こぶを形成する部位も決まっているようです。虫こぶ形成者から植物側へ何らかの刺激が与えられ、それに伴って植物側が反応するため、寄主と虫こぶの形、大きさ、色などの一般的性状にはほぼ一定の関係があるようです。つまり、虫こぶとその形成者との関係を知ることができれば、虫こぶの性状から虫こぶの形成者を知ることができます。虫こぶを観察することで、博物館周辺の植生と虫こぶとの関係を考えたり、特異な虫こぶの性状から植物の同定にも一役買いそうです。

博物館周辺は多様な植物に囲まれ、豊かな自然に触れることができます。植物観察に虫こぶの観察も加え、形成者、寄生者をはじめとする様々な生物の存在や生物相互の関係、食物連鎖などを学ぶこともできます。さらに、虫こぶ形成者が虫こぶ内部でどんな生活をしているかにも思いを馳せることができます。

昨年秋には、産業技術総合研究所（茨城県つくば市）の研究チームが、イスノキに虫こぶをつくる「モンゼンイスアブラムシ」が虫こぶ内壁を吸水性のあるスポンジ状の表層構造にし、液状の排泄物が虫こぶの中にたまらないようにしていることを明らかにしました。

未知の事柄が多く、たくさんの魅力を持つ虫こぶをぜひ探してみてください。

(生物部門：永井 元)

## 明治の商業デザイン 松本家資料の引き札



写真は明治時代の引き札である。紙製で縦26cm、横38cm。引き札は商業広告として江戸時代から広まった、ピラ、チラシのようなもの。

中央に大きく描かれているのは大黒天。彼がいつも背負っている白い袋から、札束、米俵などを持った童子が飛び出してくる。なんとも景気の良いデザインである。

これは平成24年に松本圭司氏から寄贈された、松本家資料のうちの一つである。同家は秋田市土崎で問屋・小宿をなりわいとした商人の家で、土崎は北前船が往来する秋田藩最大の湊であった。

松本家に伝わった引き札は計148点。うち80点が地元土崎の事業者の引き札、27点は土崎以外の秋田県内、41点は県外で、松前、酒田、新潟、直江津、敦賀、境、大阪、東京など各地にわたり、日本海沿岸の港町が目立つ。それはそのまま松本家の取引・交際のひろがりを物語る。

明治時代には全国で大量にカラフルな引き札がつくられた。その画題は大黒天・恵比須をはじめ、七福神、女性像、文学の登場人物、鶴、亀、汽車、船、風景などさまざまである。自社の商品を描いたものは、意外と少ない。むしろ上の写真のごと

く、商品とは無関係に、ひたすらめでたく、景気の良い絵をのせたものが主流である。見た目は派手だが、商品の宣伝は控えめ。そのような引き札が多いのはなぜだろうか。

明治時代の引き札は、各地域の小企業が、正月に得意先へ配ることが多かったといわれる。たしかに松本家資料においても、全国的な有名企業の引き札はみあたらない。暦を併載した引き札が多く、「謹賀新年」と大書したものもある。数年にわたって、同じ人が松本家に贈っている例もある。恒例の年始の挨拶のついでに渡したのかも知れない。

大企業の大宣伝のためではなく、個別的な、ローカルなつきあいのなかで、引き札が取り交わされた。新年を賀し、得意先の繁栄を祈る。引き札が単なる宣伝媒体ではなく、そのような「親密な関係」を演出する道具だったとすれば、宣伝は控えめ、絵は景気よくというのも納得がいく。

(歴史部門：新堀道生)

# 博物館教室

専門の知識や技術を学べる教室も行われています！



考古学入門講座



初めての古文書解読



古文書大學校



ゼロからはじめる  
ワラ仕事

## ふるさとまつい広場

季節にあわせた民俗資料を公開！



東北のこけし



雛人形

# 予告!

## 特別展

# あきた大鉄道展

平成25年7月6日(土)～10月20日(日)

※8月26日(月)～9月9日(月)は展示替えのため見学できません。

**JR東日本をはじめとする県内の鉄道会社・バス会社各社の後援により開催!**

明治時代に始まる奥羽線建設から

秋田新幹線スーパーこまち号まで、

114年にわたる秋田鉄道のものがたり。

秋田を駆けぬけた車両を一挙紹介する**夏**の前期展示。

駅にスポットをあて、郷愁を呼び起こす**秋**の後期展示。

**どちらも見どころ満点。**

入場料：大人500円、高大生300円、  
小中学生100円、幼児以下無料

横荘線機関庫構内で18号機関車の  
洗濯作業を行う機関助手

特別展

# あきた大鉄道展



行商の婦人（昭和33年9月大曲駅にて）

- 前期開催 7月6日(土)～8月25日(日)  
小特集 機関車・電車のものがたり
- 後期開催 9月10日(火)～10月20日(日)  
小特集 ふるさとの駅舎

**鉄道の魅力満載の豪華展示！  
スタンプラリーも開催！**



雪落とし作業中の  
E3系こまちR1編成  
(秋田車両センターにて)

## 企画展

### 霊峰鳥海に祈る人びと

4月27日(土)～6月16日(日)

鳥海山の歴史や信仰に関する文書、仏像などを紹介します。また、江戸時代から現代までの鳥海山を描いた絵画も紹介します。

### わくわく科学展

11月10日(日)～2014年1月13日(月)

展示物を使っての実験や観察をとおして、物の運動の法則や、電気や磁石などのおもしろさを実感できます。

### 秋田のくすい今昔物語

2014年2月1日(土)～4月6日(日)

秋田で使われていた薬草や民間薬、民間療法などを紹介します。

### 菅江真澄資料センター 企画コーナー展

- 真澄片手に男鹿半島へ……………7月6日(土)～8月25日(日)
- 真澄と俳諧……………10月12日(土)～12月1日(日)
- 随筆『久保田の落ち穂』の世界…………<sup>2014年</sup>2月8日(土)～3月23日(日)

### 秋田の先覚記念室 企画コーナー展

- 飛行詩人・佐藤章 ～秋田初の民間飛行士～  
……………<sup>パイロット</sup>9月14日(土)～11月10日(日)

### ふるさとまつり広場

- 天神信仰……………4月9日(火)～6月2日(日)
- 七夕絵どうろう……………6月4日(火)～7月3日(水)
- 東北のこけし……………<sup>2014年</sup>10月29日(火)～2月2日(日)
- 雛人形……………2月4日(火)～4月6日(日)